

第5回松本市交通政策検討委員会の振り返り

次期総合交通戦略と令和7年度に実施する調査について

活用データについて

【高瀬会長】

- ・活用データの中に令和3年度道路交通センサスが含まれているが、新型コロナウイルスの影響も踏まえると、参考データとして適切か。

【事務局】

- ・調査は、緊急事態宣言期間後に実施されており、平成27年調査と比較し、トリップ数は減少しているが減少幅自体は鉄道やバスなど他交通手段の調査と比較すると小さい。前年の令和2年に実施された国勢調査を含め、調査結果の取扱いに注意して分析したい。

松本市パーソントリップ調査の調査票について

設問について

【高瀬会長】

- ・世帯票に現在の住まいへの転居時期の項目を設けてはどうか。居住期間の長さによって、移動の特性も異なると考えられる。

【事務局】

- ・調査項目の追加を検討する。

「現在のお住まいへの転居時期」として、転居年を回答頂く設問を設けた（別紙 松本市パーソントリップ調査 世帯票 を参照）

【伊藤委員】

- ・7人以上の世帯へ世帯票を2部送付した場合に、人目の番号が重複する。区別できるような記載を加えてはどうか。

【事務局】

- ・区別できる形の郵送を検討する。

2枚目の世帯票の 人目の部分は8人目から始まる用紙を用意し、該当世帯にはそちらも同封して調査を実施した

【大岩委員】

- ・目的地へ向かう途中の立ち寄りとは、移動として扱わないこととなっているが、買物を目的とした移動との区別をどのように回答者に伝えるか。

【事務局】

- ・大まかに人の移動実態を把握することが目的であり、軽微な立ち寄りは、目的地として扱わない。伝え方については検討する。

「記入のしかた」という調査物件を同封し、その中に「移動の定義」を記載した。

【高瀬会長】

- ・大まかに人の移動実態を把握するという調査意図に反し、移動実態が細かく記載された回答も出てくると考えられる。調査規模が大きくないため、調査結果の分析の際は注意した方がよい。

【事務局】

- ・駅での乗り換えなど、細かい動きが回答された場合、データ作成時に結果を束ねるなどの対応を検討する。

紙の調査票からデータ化する段階で、調査定義のトリップと異なる細かい形で回答されていた場合は、定義に合う形で束ねる処理を行った。その上で、マスターデータ作成処理の最後に、今回の調査結果の平均移動回数に対して極端に移動回数が多いサンプルがないか（例：平均移動回数が3.3回程度なのに対し8トリップしている、など）を個別に確認する。

以上。